

# トラック輸送情報（平成15年 4月分）

平成15年 7月 2日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

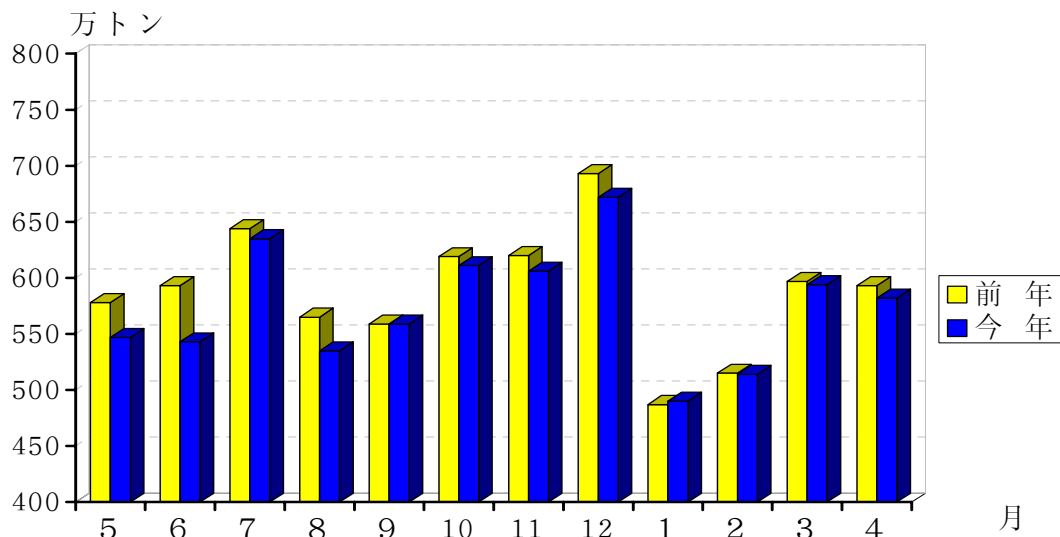
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の輸送状況

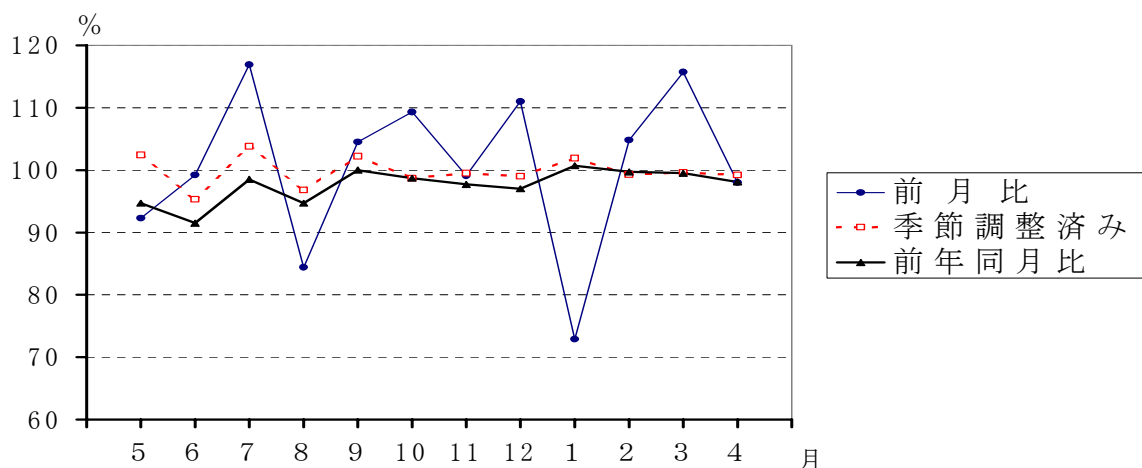
調査対象26社の本月の輸送量は5,822,850トンで、前月と比べ、総輸送量が約12万トン減少したため、前月比 98.0%（季節調整済み 99.2%）、前年同月と比べると、約11万トン減少したため、前年同月比 98.1%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、23.5日で、前月と比べ、1.1日の減少、前年同月と比べると、0.1日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、247,781トンで、前月と比べ、約0.6万トン増加したため、前月比102.5%、前年同月と比べると、約0.4万トン減少したため、前年同月比 98.5%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



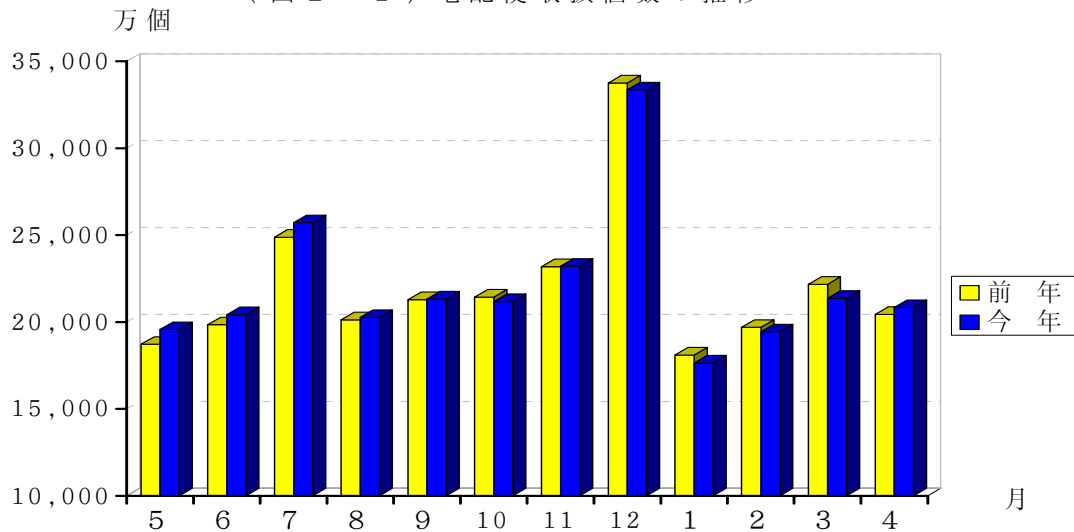
（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



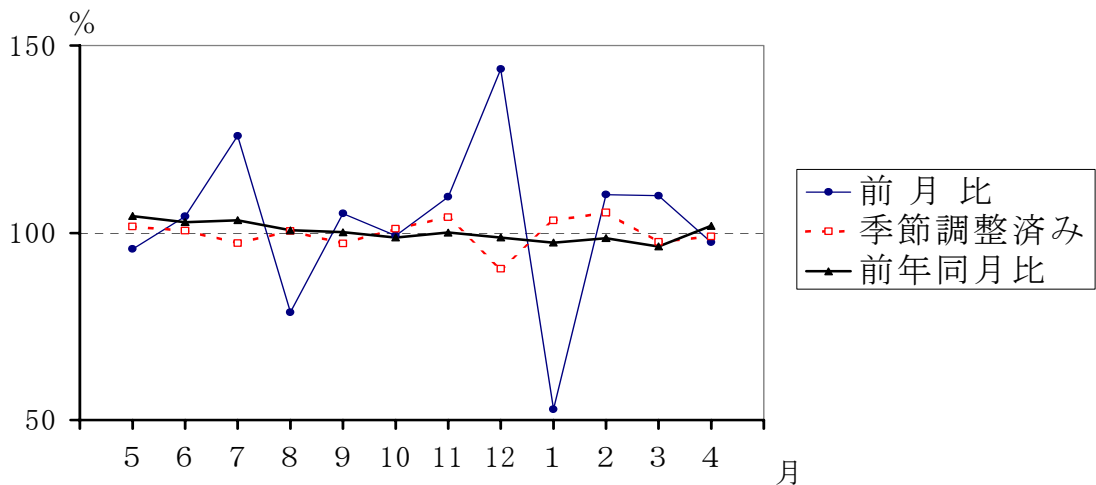
## (2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、208,347千個で、前月と比べ、約530万個減少したため、前月比97.5%(季節調整済み 99.1%)、前年同月と比べると、約390万個増加したため、前年同月比101.9%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



## (3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、決算期及び引越しシーズンが終了した反動を受けて、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物減、季節的需要減を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、商社・問屋からの貨物減、不況を主な理由として、その他が全国において、工場・生産地からの貨物減、季節的需要減及び不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	変らず	減	著減					
前月に比べて	農水産品		3	11	2	1	農産物	中国、九州	4, 8
								東北、関東、北陸信越	4
	金属製品		1	16	2	1	建築用金属製品	関東	4
								全国	4, 8
	機械		1	14	4	1	家電製品、農機具、機械部品	関東	4
	化学工業品		3	16	2	1	塗料・樹脂製品	関東	4, 7
	繊維工業品		1	16	5	1		関東、中部	4
									4
前年同月に比べて	食料工業品	1	2	15	2	1	製造食品、飲料	関東	5
	日用品		3	8	9	1	文具、運動用品	関東、近畿	4, 5, 7
							一般貨物、身廻品、書籍	全国	4, 5, 8
	その他		5	10	5	1	宅配貨物、百貨店商品	関東、近畿	2, 4
						引越し荷物	全国	8	
前年同月に比べて	農水産品		1	12	4			東北、関東、北陸信越	
							農産物、青果物	中国	4
	金属製品		1	13	6		建築用金属製品、家電製品	中国	4
								関東、近畿	4, 9
	機械		1	14	5		産業機械、機械部品、自動	東北、北陸信越	
								関東	4, 9
	化学工業品		1	15	6		窯業製品、紙・パルプ	関東	4, 9
	繊維工業品		3	12	8		糸	関東、中部、近畿	4
前年同月に比べて	食料工業品		2	14	5		加工食品	東北、北陸信越、四国	7
								関東	2, 4, 5, 9
	日用品		2	11	8		文具、運動用品	関東、北陸信越、近畿	4, 7
							一般貨物、書籍	全国	5, 9
その他		2	11	8			東京、大阪	2	
						宅配貨物、百貨店商品、引	全国	4, 8, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 875社 / 調査対象事業者数 1,095社）の輸送量は、前年同月比 98.3%、前月比 95.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	98.3%	96.1%	97.7%	97.5%	102.8%	99.6%	98.3%	95.7%	103.9%	97.1%	102.2%
前 月 比	95.2%	96.5%	94.4%	95.9%	97.0%	94.6%	95.7%	88.8%	99.4%	92.7%	99.3%

### (2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、肥料・野菜・果物の輸送の増加があったが、春になった事により「その他の石油製品（灯油）」「廃棄物（雪）」、年度末の公共工事の終了による「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送減により、対前月比は96.5%となった。また、対前年同月比も公共工事の低迷により、96.1%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、「穀物」「化学肥料」等の輸送量が増加したが、引越輸送等の「取り合せ品」、灯油等の「その他の石油製品」や公共工事等が終了した事による「砂利・砂・石材」の輸送量の減少が目立った。このため対前月比は94.4%、また、対前年同月比は97.7%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に横ばいの傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、連休前の月であるため、「日用品」「その他」の品目の増加が見られた。その反前月増加した「その他の石油製品」「機械」等が減少したため、対前月比は95.9%、対前年同月比は97.5%と共に減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、年度末並びに冬期終了等により「砂利・砂・石材」「その他の石油製品（暖房用灯油）」「取り合わせ品（引越貨物）」の輸送減がみられたため、対前月比97.0%と減少したが、対前年同月比では102.8%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、自動車輸送の減少により「機械」が、建設関連では季節的需要及び天候を理由に「砂利・砂・石材」「木材」等の減少が見られた。また、季節的需要を理由に家電製品等の「日用品」が減少した。このため、対前月比は94.6%となり、対前年同月比は99.6%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月が減少傾向、以降は横ばい傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、先月が年度末により、輸送量の増加があった反動と考えられるが、「鉄鋼」「機械」といった工業品の減少が目立ち、対前月比は95.7%となった。また、対前年同月比も98.3%と減少している。今後の輸送見通しは、全体的な輸送量の減少傾向は、なお続くものと予想されており、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、大型連休の関係や、引越業が4月に入って落ち着いたことも原因であるが、景気回復の目途が立っていない事もあり、ほとんどの品目で輸送減が目立った。このため、対前月比は88.8%、また対前年同月比も95.7%と共に減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、石油関係の品目は不需要期に入り、また「化学薬品」「紙製品」は工場生産の要因により減少している。しかし、「野菜・果物（タケノコ・みかん）」が季節的要因により、「食料工業品」「日用品」が行楽シーズンにより増加が見られた。このため、対前月比は99.4%と横ばいであったが、対前年同月比は103.9%と上昇した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、ほとんどの品目輸送量の増減が見られ、暖候期による「食料工業品（飲料）」や引越シーズンによる「取り合せ品」等の輸送増が見られたが、公共事業の終了に伴う土木関係品及び暖候期や価格上昇等による石油関係品目の輸送減等が見られたため、対前月比92.7%、対前年同月比も97.1%と共に減少した。今後の輸送見通しは次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、小・中学校が新学期を迎えたのに伴い、学校給食搬送依頼の増加による「食料工業品」の輸送が増加した一方、引越繁忙期のピークを過ぎた影響で、「取り合わせ品」の輸送が減少した。このため、対前月比では99.3%、対前年同月比では102.2%となった。今後の輸送見通しは次月はほぼ横ばい、以降は上昇傾向にある。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	4	0	0	0	1	1	0	1	0	7
	減	0	2	0	1	1	0	0	0	2	0	6
2. 野菜・果物	増	2	0	1	1	1	1	0	2	5	0	13
	減	1	2	1	0	0	1	0	0	5	0	10
3. その他の農産品	増	0	1	2	1	0	0	0	0	3	0	7
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	1	0	3	0	5
5. 水産品	増	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	4
6. 木材	増	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	5
	減	4	4	0	1	1	1	1	1	1	0	14
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	3	2	1	1	0	0	0	0	1	0	8
	減	8	2	0	2	2	0	4	0	9	0	27
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	3	1	0	0	0	0	1	0	2	0	7
12. 鉄鋼	増	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	2	1	0	1	1	1	2	0	0	0	8
13. 非鉄金属	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
14. 金属製品	増	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	4
	減	1	1	0	2	1	1	1	0	3	0	10
15. 機械	増	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	4
	減	0	2	4	0	3	2	4	0	5	0	20
16. セメント	増	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	4
	減	2	2	0	0	2	0	1	0	3	0	10
17. その他の窯業品	増	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	減	1	3	1	0	0	0	0	0	4	0	9

運 輸 局		品 目	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			信							計
						越							
18. 揮 発 油	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	1	3	1	1	1	0	1	0	0	8
19. そ の 他 の 石 油 製 品	増	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	減	2	5	3	4	0	0	2	2	5	0	0	23
20. コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	4
21. 化 学 薬 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
22. 化 学 肥 料	増	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
	減	0	0	1	1	0	0	2	2	1	0	0	7
23. そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	1	1	0	0	4	0	0	6
24. 紙 ・ パ ル プ	増	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3
	減	2	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	6
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
26. 食 料 工 業 品	増	0	3	1	0	2	0	0	2	10	1	0	19
	減	2	2	0	0	1	1	0	0	2	0	0	8
27. 日 用 品	増	0	0	5	0	0	2	0	1	5	1	0	14
	減	4	2	1	1	4	2	1	0	4	0	0	19
28. そ の 他 の 製 造 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	5
	減	0	1	0	0	0	1	0	1	3	0	0	6
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. そ の 他 の く ず も の	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	4
31. 動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
32. 廃 棄 物	増	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	4
	減	9	1	0	1	0	0	1	1	4	0	0	17
33. 輸 送 用 容 器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
34. 取 り 合 せ 品	増	0	1	1	0	0	2	1	0	4	1	0	10
	減	0	3	1	3	0	1	2	0	2	3	0	15
35. そ の 他	増	0	0	3	1	0	1	1	0	0	2	0	8
	減	0	0	1	4	3	0	1	0	0	0	0	9